

# 編 集 後 記

今月の「子どものいる暮らし」の記事には、「幼稚園の遠足に病気の妻のピンチヒッターで行った筆者」と娘のピアノの発表会のために仕事を休む若いお父さん”の二人の父親が出ています。

男性の書き手に、子どもとの暮らし振りやそのことを通してのご自身の変化を書いていただくとうと、このシリーズを始めて二年になります。この二年の間にも、男性の子育てへの参加の仕方に変化があったように思います。二人の父親にそれが現われているようです。

私は小児科の外来によく行きます

\*

が、母親と二人で我が子連れれてくる父親は以前からいました。その後、一人で病気の子を連れて来る父親が増えました。最近では、先生の問診に、昨夜の様子、体温、食欲、下痢の様子など、きちんと答えている若い父親までいて、それにはびっくりさせられます。その父親は決してその場限りのピンチヒッターではないのです。

この春の、下の子の中学の入学式でも、平日にかかわらず多くの男性が出席していました。しかも、式だけでなくその後の保護者会にも、クラス委員を決める輪にも加わっていた方がクラスに数人ずついて、これにも驚きました。

父親の子育てへの参加の仕方が変わってきていることに気がつかれました。  
(A)

## 幼 児 の 教 育

第九十八巻 第七号

(一九九九年七月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十一年七月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112 東京都文京区大塚二丁目

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108 東京都港区三田五丁目

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113 東京都文京区本駒込

六一一四一九

☎〇三十五三九五五六二(営業)

☎〇三十五三九五五六〇四(編集)

振替 〇〇一九〇一二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。